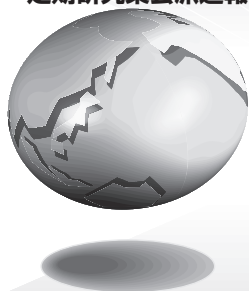


本学会と交流のある海外学会の
定期研究集会派遣報告



第 27 回中華医学会影像技術学会 (CSIT 2019)

開催場所：済南市，中国

開催日：2019 年 11 月 7～10 日

アジアで英語口述発表を行って感じた三つのこと

派遣員 寺崎 圭 京都大学医学部附属病院

1. CSIT 2019

第 27 回中華医学会影像技術学会 (Chinese Society of Imaging Technology: CSIT) は、2019 年 11 月 7 日から 10 日までの 4 日間、中国の山東省済南市にて開催された。この度、日本放射線技術学会の派遣会員として CSIT 2019 へ参加し、英語で口述発表を行う機会をいただいたので、その概要について報告する。

CSIT 2019 には、中国各地から 3000 人余りの参加者が集まったそうである。CT や MRI、マンモグラフィを含む X 線撮影、血管造影、核医学といったモダリティ別セッションだけでなく、救急撮影、小児撮影などテーマ別のセッションもあった。本邦と同様に CSIT においても、人工知能に関する演題が多数みられた。

2. 英語口述発表

CSIT の学術発表は中国語での発表がほとんどであったが、インターナショナルフォーラムセッションでは、英語による口述発表が行われた。私は半導体検出器を用いた computed tomography dose index (CTDI) の測定法に関する口述発表を行った。8 分間の口述発表と 2 分間の質疑応答が設けられ、本発表に対して 2 名の参加者から質問があった。座長の助けも借りつつ、なんとか質問に答えることができた。

3. アジアで英語口述発表を行って感じたこと

CSIT への参加を終えて、私がアジアで英語口述発表を行ってよかったと思うことが三つある。一つ目は、「参加者のほとんどがノンネイティブ」であることである。座長も参加者も母国語が英語ではないノンネ



口述発表後の発表者一同(右から 3 番目が筆者)

イティブであると思うことで、落ち着いて発表することができた。ただし、留意すべき点は、インターナショナルセッションの参加者は、英語が堪能で実績のある方が多いということである。英語口述発表においては、アジアであっても質疑応答への十分な準備が肝要であると感じた。二つ目は、「アットホームな雰囲気」であることである。私が発表したセッションは参加者が20名ほどの比較的小さな会場であった。そのため発表者と参加者の距離が近く、質疑応答では意見交換しやすい雰囲気で、有意義な議論ができたと思う。三つ目は、「日本から短時間で渡航が可能」であることである。アジア圏内であれば、移動時間は長くても半日程度で、今回のCSIT開催地は日本から空路で約3時間の移動であった。更に日本との時差が小さく、体力的な負担も少ないことは大きな利点であると考えている。以上のことから、今後、英語口述発表をした

いと思う方は、日本放射線技術学会の助成制度へ応募し、是非CSITで発表されることをお勧めする。本稿を読んでいただいた皆様がCSITに興味を持ち、「参加したい」と思うきっかけになれば幸いである。

謝 辞

最後にCSIT 2019への参加にあたり、派遣会員として選出していただき、学会期間中行動をともにさせていただいた白石順二代表理事ならびに国際戦略委員の皆様、学会事務局の皆様に心より御礼申し上げます。また現地で案内いただいた山東医学高等专科学校の李萌先生、同行いただいた京都大学医学部附属病院放射線部の上田克彦技師長、本研究を遂行するにあたり多大な助言をいただきました京都大学医学部附属病院放射線部の皆様に深く感謝申し上げます。なお、今回の助成金は渡航費用として使用しました。